

美濃陶芸の魅力伝える

とうしん 美術館 青釉茶盃や天青器展示

東濃信用金庫が買い上げた地元元陶芸作家の秀作を紹介する「とうしんコレクションⅢ」が3月28日まで、多治見市虎渓山町のとうしん美濃陶芸美術館で開かれ

ている。人間国宝や中堅作家の立体造形や器が並び、美濃陶芸の幅広い魅力を伝えている。

同金庫は1986年から



東濃信用金庫が買い上げた美濃陶芸の秀作が並ぶ会場
＝多治見市虎渓山町、とうしん美濃陶芸美術館

美濃陶芸作品永年保存事業として、毎年購入している。コレクション展は3年目で、本年度加えた作品を中心に選んだ。

展示したのは、同時開催の茶わん展と合わせて59点。本年度美濃茶盃大賞を受賞した東正之さんの「青釉茶盃」、東海伝統工芸展で同金庫賞を受賞したブーチンさんの「天青器」は、それぞれに青の発色が印象深い作品。昨年度永年保存対象となった安藤雅信さんの「茶器揃」は焼き物とは思えない銀彩の質感が際立つ。伊村俊見さんの「囊nurari(ぬりり)」は、変化する袋の形を表現したという。

人間国宝の加藤孝造さんが黄瀬戸、同じく故加藤卓

男さんが碧釉と、認定とは異なる技法で作った珍しい作品もある。

同館学芸員の與語小津恵さんは「所蔵品で見る美濃陶芸の世界をぜひ楽しんでほしい」と話している。

(箕浦由美子)